

第15回信毎選賞

3氏に決定

公益財団法人信毎文化事業財団
(理事長・小坂健介信濃毎日新聞社
社長)は8日、第15回「信毎選賞」
を個人3人に贈ることを決めまし
た。県内在住、または長野県にか
わりの深い24の個人・団体が候補に
挙がり、審査委員会を経て、財団理
事会で決定しました。贈呈式は11月
10日、長野市内のホテルで行い、正
賞のメダルのほか、副賞として各30
万円を贈ります。(敬称略・順不同)

東京・山谷地区で身寄りのない人の
ホスピス運営

山本 美恵 (52) (伊那市出身、東京都台東区)

社会問題を交えた推理小説でデビュー。
安曇野市を拠点に精力的な作家活動

遠藤 武文 (44) (安曇野市)

新しい写真表現の開拓で写真界や美術界に新風

高木 こずえ (25) (中野市)

【受賞者の紹介は16面に】

助け合う仕組み

現代には必要だ

東京の山谷地区で身寄りのない人のホスピスを運営している、伊那市出身の山本美恵さんが、第15回信毎選賞を受賞することになったと聞き、この暗い時代に希望を見た思いがした。

私の友人も集団就職し東京で働いていたが、やがて体を壊し、山谷地区で日雇いの労働をしていた。そしてホームレスとなり身寄りのないまま孤独死をした。一生懸命に働いて、日本を支えてきたこういう人々が、医療も受けられず、孤独に死んでいく

のは、本当に悲しいことだと思つてきた。山本さんが運営する「きぼうのいえ」で最期を迎えた方々は、きつと安らかに逝くことができたと思う。亡くなる前に「あなたは大切な人だよ」と言ってもらえることは、つらい人生を歩いてきた方にとつて、本当に大きな光であると思えるからだ。

「みんなが助け合えば、お金がなくても安心できる仕組みができる」と山本さんは語るが、現代にはしっかりとした新しい「助け合いの仕組み」が必要だろうと思つた。

埴科郡 塚田 明人

(自営業・55)